

教養プロジェクト

前鼻祥多

本

・鉄・銃・病原菌

1997年発行 本書はユーラシアや北アフリカの文明がなぜ生き残り、他の文明を征服してきたのかについての説明を試みている。人間社会の間の権力と技術の差は主に環境の差異に起因している。この環境の差異はフィードバックのループにより増幅する。そしてこの環境の差異についてのキーワードが「鉄・銃・病原菌」。耐久性のある輸送手段としての鉄 武器としての銃、病原菌はヨーロッパ人は家畜との長いかかわりの中で免疫を手に入れ、病原菌によって少ない兵力で圧倒的多数のアメリカやその他の地域の先住民にとってかわる一因となった。

・テーマパーク化する地球

オマーンにリゾートがあったり、ナミビアで気軽にサファリが楽しめたり、砕氷船によって北極点に行けるなど、数十年前までのちがけの覚悟必要だった場所が金さえ出せば行けるような時代になっている。しかし、クルーズ船でいくリゾートは作り物で現地の人々の現実には決して触れられない。ただし、人々がテーマパークというウソを欲している一面もある。

それぞれは独立したテキストだが、東氏の誤配や二次創作、などの中心的思想が垣間見える。

・誤配の哲学

インタビュー形式で東氏の過去の著作などに触れながら、彼の誤配という中心思想を解き明かす

・新復興論

福島県出身で福島県在住の作者。現地の住民の視点でかたられる福島の現状。

- ・放射線などについての風評被害について
- ・地元民とそこへ避難してきた人々との確執
- ・復興は成功したのか？

誰もが「復興」を叫んでいたが誰もその意味を問うことなく、そのごり押しに巻き込まれてワリを食うのは生活者であったという事実。

下請け気質の強い地域に支払われた多額の賠償金は自立、発展、新たなチャレンジでな

どではなく会社存続の麻薬になってしまう。地域の課題を解決するのではなく増強してしまっただけ。

これらの現状から必要なのは金だけの支援ではなく足元からの地域づくりであるとしている。

・ D2C

大量消費の時代ではなくなり、ミレニウム世代は社会問題に関心を持っている。商品だけではなくその会社の世界観に共感する。キーワードは「世界観」と「テクノロジー」。

・ アマゾンのすごいルール

圧倒的な顧客至上主義、そしてベゾスの理念

Amazon 社員全員にたいしてリーダーシップを求める。顧客へのこだわりや創造と単純化をおこなえ、学び続け興味を持つ

思考停止に陥るな！

目標管理は細部まで徹底管理し、PDCA サイクルを回す

権限はすべてアメリカ側に集約

・ ティール組織

2018 年発行 ティール組織と言う新たな組織モデル

組織の進化の歴史などについての記述

・セルフマネジメントは権限委譲により、それぞれが自主的に判断して行動する。スタッフ機能の最小化。上司はおらず、相談相手にコーチがいる。コーチは答えをださない。

・全体性では会社でもありのままでいれること。社員としてのふるまいではなく個性を發揮できるように。子供やペットを職場につれてきたり。

・存在目的なんのためにこの目標があるのだろうかということ共有、またはともに議論する。セルフマネジメントによって達成できる。

・ 融けるデザイン

基本的にはインターフェイスのデザインについて書かれている。

・脱メタファ

・フラットなデザイン

・アップルのリアルな木製の感じや光沢感などのスクエアモーフィズムはパソコンに触れていない人向けだった。パソコンに慣れた世代には邪魔

例えば、BMW や日産やトヨタなどの自動車メーカーのロゴ改定などのように車のエンブレムだけでなく紙面上やインターネット上で用いることを考えるための改定が行われ

た。

さらに、体験を軸とした設計へ、文化や社会レイヤーを通してのデザインが必要となる。

・ハマるしかけ

習慣は顧客生涯価値をあげ、値上げの苦しみを克服し価格設定の自由度を上げる。使われつづけるサービスを生み出す「心理学」×「デザイン」

頻繁に使用するユーザーはブランドのエバンジェリストとなり企業側がほとんど費用をかけるとなくユーザーを獲得でき、急激な成長をもたらし、競争力を高める。

トリガー→アクション→リワード→インベストメントのサイクル

具体的な政策は以下のようなもの

- ・キュレーションによる興味をそそるコンテンツ

- ・twitterにはつまらない情報も必要な情報も混在していることによるギャンブル的な報酬

- ・スクロールし続ければ更新されいつまでもスクロールできる

- ・達成度の数値など 目的がわかりやすく、達成感をかんじること

ゲーム、メールの未読、学習の進捗状況や達成度へのフィードバック

- ・フォロワーがおおければ twitter の価値が高まる→フォロワーを増やそうとコンテンツを投稿する。これにより twitter 全体のたちが高まる。

・誰が音楽をタダにした？

音質を保ちながら圧縮を実現した mp3

音楽の不正コピーという文化

彼らはいち早く海賊版を出すことを競っていた

金よりも海賊版のリークにはまっていた

広告収入へとシーン全体が移り変わる

絵画

・ミケランジェロ / ピエタ

聖母子像のうち、死んで十字架から降ろされたキリストを抱く母マリア（聖母マリア）の彫刻や絵の事。ミケランジェロ作のピエタは4作あるが、サン・ピエトロのもの有名だと思う。大理石の一枚岩から創り上げられており、布の表現は本当に素晴らしい。

・セザンヌ / りんごとオレンジ

諸要素の連続性を追求されており白いクロスにリンゴや模様のある布の色味がみられたり、水差しはリンゴと模様のある布との融合のように見える。

要素の融合により白いクロスを見るだけわかるように色の豊かさを感じられる。

・ルノワール / ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会

色の豊かさ、また光の表現の美しさがある。

・ジョルジュ・スーラ / グランド・ジャット島の日曜日の午後

これも印象派の中では有名な作品だろう。

スーラは印象派の技法を昇華させ筆触分割という点描の技法でそれぞれにあり得ない色が配置していたりする。例えば人の服をよく見てみてもいろいろな色がちりばめられている。

・クロード・モネ / 睡蓮

睡蓮は多数作成されている。大きい作品もあるのでいろいろな作品を楽しめる。

・ダリ / 記憶の固執

シュールレアリスムの代表的な人物。

シュールレアリスムは 夢と現実の矛盾した状態の肯定と語られることも開設される。ダリも見た夢を描いたという話にもあるように現実にはあり得ないものの奇抜さに面白さがある。

・ジョルジュ・デ・キリコ / The solitary archaeologist

キリコは形而上絵画派を興した人物で、後のシュールレアリスムに大きな影響を与えたとされる。

形而上海外は遠近法の焦点が合ってなかったり、人がかかれずマネキンのようなものなどがよく登場し基本的に生き物は登場しないなどが多く、不気味さ、不安、哀愁などを感じる。

・デービッド・ホックニー / Portrait of an Artist

ホックニーは 1960 年代よりポップアート運動にも参加し大きな影響を与えた人物。イギリスの 20 世紀の現代芸術を代表する 1 人

プールを描いた絵はいくつかあり、評価も高い

・ダミアンハースト / 1000 年

大学卒業後くらいの初期作品のひとつ

グロテスクでもあるが、ダミアンハーストの主要テーマである「死」について、絵画では表せない時間という要素を取り込み奇抜なアプローチで考えられた作品であると解釈するととても興味深い作品である。

ハーストは他にもホルマリン漬けにした動物や自身の薬物依存から薬物を扱った作品なども有名

ビジネスとしてアート活動を行う芸術家としても有名で存命の芸術家の中で一番の資産家となったこともある。

・バンクシー / Mural by Banksy

イギリスを拠点とする匿名のアーティスト

これは去年のクリスマス ホームレス

マッシュブアタックの 3D ともいわれる

社会風刺やブラックユーモアな作品

ジャズ音楽

・ Charlie Parker With Strings: The Master Takes / Charlie Parker

ビバップの生みの親であるチャーリーパーカーの作品。

いろいろな曲をチャーリーパーカーの新たな解釈でアレンジしている。

・ Somethin' Else / Cannonball Adderley

ハードバップに分類されるようにチャーリーパーカーよりもメロディを重視した聞きやすい作品といえる。キャノンボールアダレイ名義だが、実質マイルス・デイヴィスが統制を執っておりマイルスデイビスが選曲したスタンダードのカバーもすばらしい。

・ Kind Of Blue / Miles Davis

この作品からモード手法を演奏様式を持ち込み、ハードバップの流れのなかで即興のしやすさや表現の自由度を広げている。

・ Moanin' / Art Blakey & The Jazz Messengers

ファンキージャズの要素もあり、ブルーノートのバップらしさが感じられる作品

・ blue train / John Coltrane

モダンジャズの代表的な一枚

コルトレーンをリーダーとしたアルバムとしては唯一ブルーノートから発売された作品でもある。

• After Midnight / Nat King Cole

この頃のナットは黒人のジャズプレイヤーという経歴がありながらポップスで白人から人気を博していた。しかし、白人社会でも黒人差別は受けており、ポップスへの進出について黒人コミュニティから批判を受けていて板挟みになっていた。そんな中でのナットキングコールはあまりジャズのイメージじゃないと思うがもとはジャズピアニストであるナットの原点回帰ともいえるこの作品ではスタンダードにジャズをしている。

• Ascension / John Coltrane

コルトレーンがフリージャズを始めた作品

フリージャズはこれまでのモダンジャズの理論からの解放といえるが、フリージャズそのものはやはり馴染みづらいものであるが、この作品はフリージャズのなかでは聞きやすい部類のものだと思う。

• Headhunters / Herbie Hancock

エレクトリックジャズやフュージョンへの昇華

ハービーのエレクトリック・ジャズ期を代表する 1 枚であり、後のジャズ・ファンクやジャズ・フュージョンに大きな影響を与える。

• Heavy Weather / Weather Report

フュージョンよりの作品で 1970 年代のジャズ・ロック、もしくはフュージョンのムーヴメントにおける歴史的なアルバムだと考えられている。

これまでのジャズの表現は少なくポップスからロックに近いような奏法や展開がある。

バードランドはジャズ界でのスタンダードにもなっている。

ジャコパストリアスのベースがすばらしくこれまでにないベースの使い方しており革新的な人物

• The Epic / Kamasi Washington

ケンドリックラマーやサンダーキャット、フライングロータスなど現代のシーンの中心にいるミュージシャンとも交流があるカマシワシントンによる作品。最近のブルーノートもゴーゴーペンギンズやロバート・グラスパーなどをロックやホップスの中にジャズを取り込む在り方がみられる中、最近のジャズアーティストの中では純粋なジャズをやっているといった印象

ジャズ界の名プレイヤーとも共演し評価も高く、さらにヒップホップやファンクの影響も受け約 3 時間のこのアルバムも飽きることのない多様なジャンルの影響をうかがい知

れる作品